

令和 8 年度全国学力・学習状況調査の結果をふまえた指導改善策

【中学校・義務教育学校後期課程】

I 調査の概要

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

中学校第 3 学年・義務教育学校第 9 学年の生徒

3 調査の内容

- (1) 教科に関する調査（国語、数学、英語）
- (2) 生徒質問調査（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問調査）
- (3) 学校質問調査（学校における指導方法に関する取組みや学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問調査）

4 調査日

令和 8 年 4 月 23 日（木）

II 学力調査の結果

1 教科に関する調査結果（平均正答率）

※英語は I R T スコアで表記

2 調査の結果にみられる特徴（全国正答率を上回った特徴的な項目）

	国語	数学	英語 3 技能	英語 4 技能
全国	63.9	57.0	49.9	49.9
広島県	64	57	49.2	49.3
府中市	64	56	50.1	50.5

【国語】

【知識・技能】言葉の特徴や使い方に関する事項

語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉えることができるかどうかをみる（市 39.4% 全国 35.2%）

【数学】

【知識・技能】数と式

同類項の意味を理解しているかどうかをみる（市 75.9% 全国 70.5%）

【英語】

【思考・判断・表現】聞くこと

日常的な話題について、話を聞き、概要を捉えることができるかどうかをみる（市 60.9% 全国 43.8%）

3 調査の結果にみられる課題及びその課題に対する改善策

【国語】

課題	課題に対する改善策
【知識・技能】 単語の活用について理解できているかをみる （市 80.1% 全国 85.4%）	・活用の仕組みを整理するとともに、日常的に用いられる言葉遣いを教材として取り上げ、適切な表現との違いや場面に応じた使い分けについて考える学習を充実させる。

【数学】

課題	課題に対する改善策
【知識・技能】データの活用 起こり得る場面を樹形図や二次元の表を利用するなどして整理し、確率を求めることができるかどうかをみる （市 54.6% 全国 60.2%）	・起こり得る場合を漏れや重なりなく整理できるよう、樹形図や二次元の表などを活用する活動を充実させる。

【英語】

【知識・技能】 日常的な話題について、目的に応じて、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる (市 71.4% 全国 78.5%) 日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる (市 69.9% 全国 76.0%)	・スモールトークなど身近な場面での言語活動を通して、既習表現やキーワード、場面の状況などを手掛かりに必要な情報を捉える指導を継続的に行う。 ・教師の英語による語りかけや教師と ALT の英語のやりとりを充実させ、英語を聞く量を確保する。
---	---

4 生徒質問調査の結果にみられる特徴（全国平均値を上回った特徴的な項目）

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか (市 92.7% 全国 90.9%)

5 生徒質問調査の結果にみられる課題及びその課題に対する改善のポイント

肯定的な回答の割合が、全国平均値よりも低かった項目	改善のポイント
分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができていますか (市 66.2% 全国 78.2%)	・自らが学習方法を選択・工夫できるよう、教科書や ICT 端末、資料、友達との対話など多様な学習手段を活用する場面を計画的に設定する。 ・「どのような方法で学んだか」「その方法は効果的だったか」など学習を振り返る機会を充実させる。